

▼リアメット配合錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 アルテメテル／ルメファントリン Artemether／Lumefantrine 【分類】 抗マラリア剤

【単位】 ▼配合錠 [アルテメテル20mg＋ルメファントリン120mg]

【常用量】 体重に応じて1回1錠～4錠

5kg以上15kg未満：20mg／120mg（1錠）

15kg以上25kg未満：40mg／240mg（2錠）

25kg以上35kg未満：60mg／360mg（3錠）

35kg以上：80mg／480mg（4錠）

■本剤の投与後1時間以内に嘔吐した場合には再投与

【用法】 初回，初回投与後8時間，その後は朝夕1日2回2日間（計6回），食直後

【透析患者への投与方法】 常用量（1）

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量（1）

【特徴】 アルテメテル及びルメファントリンを1：6の比率で含有。両成分ともマラリア原虫の食胞内において作用。アルテメテルはDHAに代謝され、アルテメテル及びDHAが有するエンドペルオキシド架橋が赤血球のヘム鉄と反応することで反応性代謝物を産生し抗マラリア活性を発揮する。

ルメファントリンは食胞でのヘモグロビンの分解過程で有毒な中間生成体であるヘムから毒性のないヘモゾインへの重合過程を阻害することで抗マラリア活性を発揮すると考えられている。

【主な副作用・毒性】 QT延長，アナフィラキシー，頭痛，めまい，睡眠障害，動悸，消化器症状，発疹など

【安全性に関する情報】

【F】

【tmax】

【代謝】 いずれも主にCYP3Aで代謝（1）

【排泄】 尿中に未変化体としては排泄されない（1）

【t1/2】

【蛋白結合率】 A：95.4%，M：99.7%（1）

【Vd】

【MW】

【透析性】

【OW係数】

【相互作用】 CYP3A関連の相互作用に注意（1）ルメファントリンは*in vitro*でCYP2D6を阻害（1）

【肝障害患者への投与方法】

【小児CKD患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】 20220511

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。